

外科専門研修プログラム

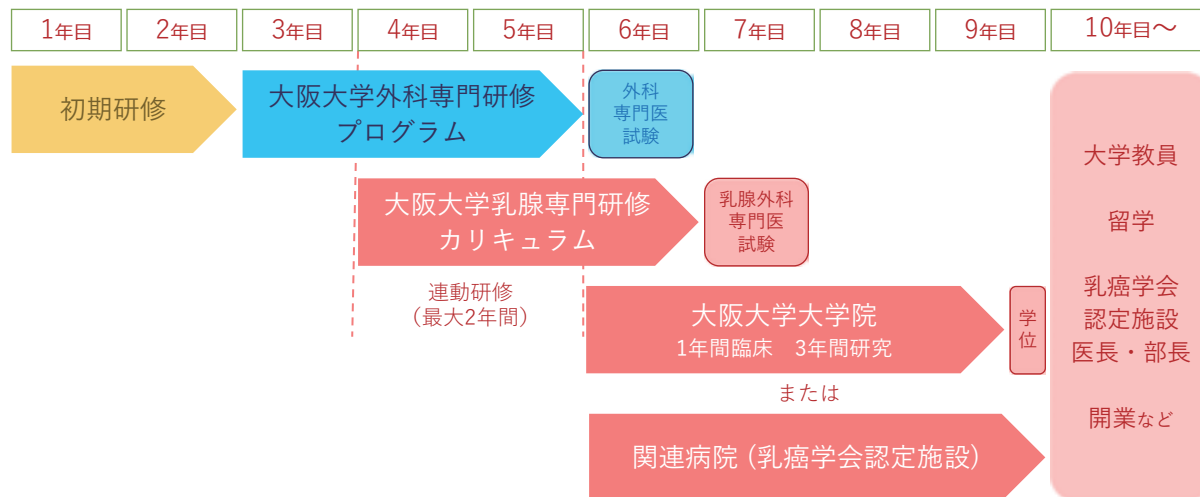
サブスペシャルティ重点コース / 乳腺外科専門医コース

(1) コースの全体像

令和4年度から日本専門医機構が認定する乳腺外科専門医制度が開始され、それに伴って乳腺外科専門医・研修カリキュラムがスタートした。従来の乳腺専門医と大きく異なる点は、外科専門医を修了しないと乳腺外科専門医を受験できないこと、単位制ではなくカリキュラム制であること、乳腺認定医の取得が不要となったこと、の3点である。従来の日本乳癌学会が認定する乳腺専門医制度もしばらくは並行して存続するが、いつまで存続するか不透明である。従って、乳腺診療を専門とすることを希望する現在の初期研修医は、事実上新制度のもとで研修する必要がある。

卒後3～5年目は大阪大学外科専門研修プログラムの下で、プログラムに参加している連携施設で研修を行う（うち半年から1年は基幹施設である阪大病院にて研修を行う）。連携施設では主に一般外科研修を行い、外科専門医取得に必要な一般外科を経験し、卒後6年目で外科専門医の取得を目指す。乳腺外科専門医取得のために、大阪大学乳腺専門研修カリキュラムの下で研修を3～5年間行う。本カリキュラムの開始時期であるが、日本専門医機構より、外科専門研修プログラムと最大2年間連動して研修を行うことが認められている。このため、最短で卒後4年目から本カリキュラムの下で研修を行うことが可能である。その場合、連携施設でも乳腺外科に所属し、乳腺疾患に関する知識と技術の習得を行うことになる。以上より、最短で卒後7年目に乳腺外科専門医を取得することが可能となる。6年目以降は大阪大学乳腺・内分泌外科に所属して、サブコースに分かれる。学位コースでは、大学院博士課程にて6～8年目には基礎研究、9年目には臨床研修を行い、学位取得を目指す。臨床コースでは、6～9年目に日本乳癌学会認定施設である関連施設や阪大病院で乳腺疾患に関する高度な診断や手術を習得し、それと平行して臨床研究を行う。臨床コースでも努力次第で学位の取得も可能である。10年目以降は大学教員に採用、海外留学、関連病院及び乳腺外科専門病院をローテーションして診療経験を積む、開業、などさまざまな働き方が可能である。研修先の医療機関やコースの選択は研修者の希望に応じる。

大阪大学乳腺・内分泌外科 キャリアプラン



(2) コースの概要

コース名： 乳腺外科専門医コース						
大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導 者数	目 的	年間 受入 人数	期 間
大阪大学外科関連病院 大阪国際がんセンター、国立病院機構大阪医療センター、関西労災病院、JCHO大阪病院、堺市立総合医療センター、市立豊中病院、市立吹田市民病院、大阪警察病院、大阪急性期・総合医療センター	外科、 乳腺外科	外科（一般消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・救急）	3～5 名	一般外科の基礎的研修と消化器外科を初め、外科専門医習得に必要な各分野の手術経験	2名	2年間
乳腺外科専門病院 大阪国際がんセンター、国立病院機構大阪医療センター、関西労災病院、JCHO大阪病院、堺市立総合医療センター、市立豊中病院、大阪警察病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪ブレストクリニック	乳腺外科、 乳腺内分泌 外科	乳腺外科（乳房切除術、乳房温存術、センチネルリンパ節生検、乳腺針生検法など）	2～4 名	乳腺疾患の基礎的知識・技術の習得、外科専門医習得に必要な手術経験、乳腺専門医取得に必要な手術経験	2名	1年間
大阪大学 乳腺・内分泌外科	乳腺外科	乳腺外科および乳腺疾患診療（乳腺切除術、乳房温存術、乳房再建術、鏡視下手術、センチネルリンパ節生検、乳腺針生検術、術前術後薬物療法、進行再発乳癌治療、ターミナルケア、臨床試験など）	9名	乳腺疾患の高度な知識・技術の習得、乳腺専門医の取得に必要な手術経験と研究論文業績	6名	4年間
大阪大学関連病院 大阪国際がんセンター、国立病院機構大阪医療センター、関西労災病院、JCHO大阪病院、堺市立総合医療センター、市立豊中病院、大阪警察病院、市立貝塚病院、市立東大阪医療センター	乳腺外科、 乳腺内分泌 外科	乳腺外科（乳腺切除術、乳房温存術、鏡視下手術、センチネルリンパ節生検、乳腺針生検術、術前術後薬物療法など）	1～4 名	乳腺外科の実践的症例の手術術者経験、外科指導医取得のための手術と臨床研究論文業績	2名	2～4 年間
				合計	12名	

（３）コースの実績

当科は乳腺専門研修カリキュラムの基幹施設であり、計 27 の連携施設を擁している。この数字は関西の基幹施設の中で飛び抜けて多く、日本でも有数である。連携施設の多くが地域の high volume center として年間 100 例以上の乳腺手術症例を有する。阪大関連病院においては研修医一人あたり年間約 150 例の外科症例経験が見込まれ、外科専門医取得に必要な各専門別症例数も充足している。乳腺外科専門病院では専攻医一人あたり年間 50～100 例程度の乳腺外科症例経験が見込まれる。毎年 2～3 名が乳腺専門医を取得してきた。令和 5 年度における、大阪大学外科専門研修プログラムで研修中の乳腺専攻医は 16 名である。

（４）コースの指導状況

関連病院外科には外科指導医 1 名以上、外科専門医 3 名以上が配置されている。乳腺外科専門病院には 1 名以上の乳腺専門医が配置されている。大阪大学乳腺・内分泌外科においては乳腺専門医 7 名（うち外科指導医 4 名）が直接指導に当たっている。また、週 2 回の症例検討会を行い、検査、手術、薬物療法においては少なくとも 1 名の専門医が直接指導を行う。

（５）専門医の取得等

資格名／学会等名	1) 外科専門医 / 日本外科学会 2) 乳腺外科専門医 / 日本乳癌学会
資格要件	1) 研修開始登録後3年以上の修練。350例(うち術者として120例)のNCD手術件数の修練実績。各専門分野の必須症例数以上の修練実績。所定の学術集会または学術誌に筆頭者として研究発表または論文発表の業績。専門医試験の合格。 2) 外科専門医であること。乳腺専門研修カリキュラムを修了していること。NCD登録術者100例以上の乳腺疾患に関する手術経験。学会発表(筆頭1回以上)と論文発表(筆頭1編以上)の業績。専門医試験の合格。(以上は見込みであり、変更がありうる)
【学会の連携等の概要】 外科専門医プログラムで研修中の最大2年間を乳腺専門研修カリキュラムの連動研修とすることが可能である。最短では医籍登録後7年間で乳腺外科専門医の受験資格が取得可能である。	



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 乳腺内分泌外科

担当者 多根井 智紀

✉ ttanei@onsurg.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.onsurg.med.osaka-u.ac.jp/>

